

種子交換で導入し、開花した植物 ケシ科の一年草（2種）

永木利夫

Eschscholzia lobbii Greene.

エッショルチア・ロビイ（写真1）

原産は北アメリカのカリフォルニア。ストックホルム大学のベルギウス植物園（スウェーデン）より種子を導入した。2000年10月27日、ピートモスに播種、育苗温室で育苗し、12月上旬、露地に定植した。3月下旬より開花を始め、4月中旬に最盛期となり、5月上旬に終了した。花は昼に開き、夕方には閉じた。葉および花は株元から叢生し、開花時の草丈、株張はともに15~20cm。葉は細裂し長さ約10cm、花茎長約15~20cm。一株に多数の花を咲かせ、花径は2~3cm、花色は黄で単生する。さく果は長さ5~10cm、幅3~4mmで細長く、中に数十個



写真1 *Eschscholzia lobbii* Greene.

の種子を有した。

栽培はハナビシソウと同じで容易。春花壇の縁取りやロックガーデンの植栽に適している。

Roemeria refracta DC.

ロエメリア・レフラクタ（写真2）

原産は地中海沿岸からアフガニスタンにかけて。導入先は前種と同じ。2000年12月7日、ピートモスに播種。育苗温室（最低温度7°C）で育苗。2月上旬、無加温ハウスに移動。3月上旬、露地に定植。3月下旬より開花を始め、4月中旬から5月上旬まで開花を休止し、5月中旬より再び開花を始め、6月上旬に終了した。開花時の草丈は約20cm、株張は約15cm。茎は直立し、上部で花茎を分枝し、一株で十数個開花した。葉は細裂し長さ約10cm、花は径約6cmで赤色、基部に黒のブロッヂがある。

栽培はヒナゲシに準ずる。春花壇に利用が考えられる。

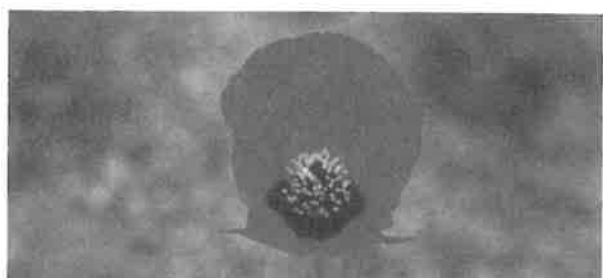


写真2 *Roemeria refracta* DC.

オールドローズの収集と植栽

在岡孝行

バラ園開設以来、当園の収集方針に沿ってオールドローズを集めて来た。今までのコレクションと植栽位置を系統別に報告しておく。今後も収集と、株の継代保存を続けていく予定である。

アルバ系（A）

非常に古い系統で、中部欧州に自生するカニナの自然交雑により出現。花色は白が主だが、強健で高性となる。ほとんどの種が灰白色の葉となる。

ブルボン系（B）

19世紀初めアフリカのブルボン島で秋にも開花する種が初見され、欧州に導入後、さまざまな交配がなされて出現した系統。樹勢、花色もさまざまだが、大輪で多花性、四季咲き性がある。

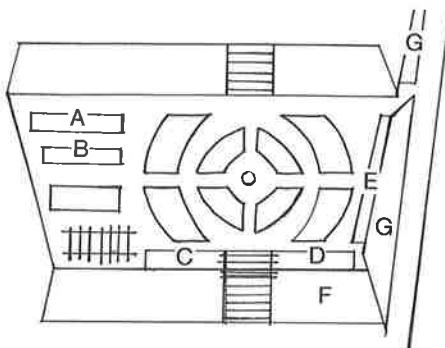
ケンティフォリア（C）

コーカサス地方でガリカとダマスク、もしくはアルバ

が自然交雑をくり返してできた系統で、多くの花弁をもち、キャベジローズとも呼ばれる。樹高はさまざまで、花型も見事で有香の品種も多い。

エグランタイン（E）

スイートブライアのハイブリッドの系統。樹勢の強いシラップでほとんどがリンゴのような匂いのある葉を着ける。多くの鋭い刺を持ち、強健で垣根などに適する。秋には多くの美しい実を着ける。



バラ園植栽位置図